

徳川家光の生母

春日局説

2017 年 6 月 23 日

2018 年 12 月追記

我部山民樹

片岡愛之助の解明「歴史捜査『春日局は三代将軍徳川家光の実の母だった！』」より

九州大学福田千鶴教授が、江戸時代の書物他により春日の局が生母と確信している。（東京大学の山本博文教授は『徳川実紀』は 200 年ほど後に書かれた書物なので自分は信じない。家光はお江の子供だったと思っている。』とテレビで語っていたのを記憶している。）

では、何故、春日局が家光の生母と『徳川実紀』に書いたというのだろうか？それに稲葉家の記録とも符合しているというのに信じないのだろうか？

また別の著名な歴史家の講演会で、生母説をどのように思いますか？その理由は？と質問したことが有る。

回答は

『お江が生母と思っている。春日局の実子と家光の誕生時期が離れているとかで、春日局が生母との説を唱えている人がいるのは知っているが、大奥で不倫のようなことをするような環境は無かったと思う。』で、納得できなかった。保科正之の生母は秀忠付の女中だったし、現代でいう不倫である。直ぐに高遠藩の養子に出されている。大奥で秀忠がお女中に手を出すことが出来た。お江は 11 年間に 8 人（男 3 人）の子供がいる。不倫でなく代理母に産ませたとしてもおかしくない。お江の長男亡き後、代理母のお福に産ませたとの説がある。



徳川家光の乳母。明智光秀の臣斎藤利三(としみつ)の女で、名はお福。稲葉正成(まさなり)に嫁し稲葉正勝ら4男を生む。家光出生とともに乳母となる。家光の将軍継嗣問題では駿府の大御所家康に直訴するなど尽力、後に大奥内外に勢力を振るう。現在の東京都文京区春日の地名は春日局の屋敷があったことに由来。

生母説の根拠

- 江戸城内にある徳川将軍のための紅葉山文庫の‘松のさかへ’という徳川家の歴史書に‘家光公のお腹は春日の局で、忠長公のお腹は御台所’と記述している。(江戸城内の文書に明記しているのには福田教授も驚いたと)

本資料は、通称『徳川実紀』とよばれているものです。林述斎(はやしじゅっさい)、成島司直(なるしまもとなお)ほかにより、天保14年(1843)に完成した幕府編纂の正史で、家康から10代家治に至る歴代将軍ごとの治績を編年体で記し、逸話については付録としてまとめたものです。全485冊。展示資料は、『東照宮御実紀』巻4(6冊目)、同付録巻10(22冊目)。紅葉山文庫旧蔵。東照宮は家康のこと。

- お福(春日局)は明智光秀の家老の斎藤利光の娘だが、本能寺の変で、利光は捕らえられて斬首された。その後、叔父の稲葉重通の養女となり、稲葉正成の後妻となる。‘徳川実紀’に‘お福はかねてより、御台所に女中として仕えていたので、竹千代の乳母となった。’と記述している。また、稲葉家の家系典に‘お福は美麗だったので、秀忠の目に留まり、懐妊した。お福の子が家光公なり’と記述している。乳母を公募されてからでなく、誕生前に大奥に入っていた。また、秀忠の目に留まり、懐妊したとある。
- 麟翔院(春日局の菩提寺)の文書には‘将軍の妻の役割を果たしていた’と書いている。
- 大火で焼け残った客殿、書院、庫裏を川越大師喜多院に移築した。竹千代誕生の間とされる客殿と書院(春日の局のお化粧の間)が隣接している。正室のお江が母親なら、本来はお江の間であるはずである。

・時系列

1579 年 お福誕生（斉藤利光の娘）

慶長 3 年（1598 年）お福、稲葉正成と離婚（正成が主君の小早川利秋と仲違いして牢人になったため）

慶長 8 年（1603 年）御福、お江（お江与）の侍女となる

慶長 8 年 7 月（1603 年） お江が初を出産

千姫が秀頼に嫁いなので、お江は同行し、しばらく京都に下向していた。

慶長 9 年 7 月 17 日（1604 年） 竹千代誕生（当時、お江は誕生日を極秘にしていた。）お福が離婚してから 5 年後だ。平産だったと伝えられている。（早産ではない）

- ・春日の局が家光の乳母に応募したことが定説だが、春日局が自分の子を産んでから、乳母になるまでは 5 年以上経っていて、家光誕生時に本当に乳が出たのか、おおいに疑問が残る。乳母に採用するはずが無い。
- ・家光誕生前に、お江与は千姫と秀頼との婚礼に同行して大坂に行き、しばらく京都に下向していた。お江与が秀忠との間で竹千代を懐妊するチャンスはかなり少なかった。早産であれば可能性が高いが、平産だった。
- ・お江与（お江）は嫉妬深く、秀忠が側室を持つことに反発したが、秀忠は、お江与の目を盗んで、女中や侍女に手を出していた。家光の弟で、後に会津藩主となる保科正之の場合もそうだ。嫉妬に狂ったお江与が正之の暗殺を企てたとの話もある。暗殺を避けるために高遠藩に養子に出された。家光が將軍に就任後に自分の弟と知り、会津藩主に抜擢する。
- ・実家の稲葉家に‘春日の局は本能寺の変の明智光秀の家老の斉藤利光の娘だったので、家光の生母が春日局であることは極秘にされて、お江の子とされた。’との文書が残っている。

その背景は

- ・秀忠の長男長丸が早世した後に竹千代が生まれた。お江与は 30 歳を過ぎていて、もう懐妊しないと思っていて、世継ぎを産むことを諦めていた。徳川家存続のために春日局の子を世継ぎにすることにお江与も同意した。実子扱いとし、世継ぎであることを明確にするために、竹千代（家康の幼名期の名前と同じ名前、後継ぎの証）と名づけた。春日局は謀反人の娘であり、徳川家の世継ぎが謀反の血が流れていることは極秘とした。
- ・後にお江与に国松が誕生して、国松を可愛がり家光を疎んじて、国松を跡継

ぎにしようとしたことも領ける。実子を跡継ぎにしたいはずである。国松を跡継ぎにすることは秀忠も同意していた。

- ・お江与は 11 年間に 8 人の子供をもうけ、男の子が 3 人いた。
- ・竹千代はお江与に疎まれ、秀忠も国松を可愛がった。幕臣もあからさまに国松のところに行き、竹千代は蔑ろにされた。12 歳の時に自殺未遂を図った。
- ・通常 12～13 歳で大名達にお披露目を行うが、春日局はそれがないことを心配して、秀忠に確認しても、その都度’追って沙汰する’との返事で進展しなかった。
- ・竹千代の廃嫡（国松が世継ぎになるためには必然）を心配して、春日局が身を呈して、駿府城まで行って、家康に訴え出たのも理解できる。実の子だから

であり、単なる乳母にできることでは無いと思われる。

実際は家康の最後の愛妾’六ノ局’に頼んだらしい。（寛政重修諸譜に）

お六は無類の美人で器用だったので、家康の寵愛を受けていた。

春日局は家康に直接、拝謁出来なかったはずである。

春日局が書いたとされる東照大権現祝詞には’家康が秀忠に「竹千代を自分の養子にしてでも、3 代将軍にする。」と言明した。’と書いてある。徳川家が二分されての御家騒動を避けたためだろうと言われている。家康は鷹狩と称して、突然、江戸に現れて、秀忠に 3 代将軍は家光と告げた。

- ・忠長（国松）は駿河大納言になるが、荒れて酒浸りになり、臣下に手をかけたので、改易となり、最後は自刃した。
- ・春日局が天皇に拝謁できたことも、朝廷より春日局の称号を受けたことも領ける。将軍の生母だったからであろう。
- ・大奥を作って家光の世継ぎ作りに奔走したのも実子だったからであろう。
- ・老中をしのぐ権勢を発揮できたのも領ける。江戸城外に広大な屋敷を五つも持っていた。これは諸大名の拝謁を受けるためだった。大奥には男性が入れないので。
- ・家光が病気になった時に薬断ちして祈願した。薬断ちは死ぬまで続けた。
- ・骨が残っているので、DNA 鑑定すれば面白いと思うが。

春日の局の辞世の句は’西に入る月を誘い、法をへて、今日は火宅を遁れぬるかな’である。火宅は煩惱や苦しみに満ちたこの世を火災に燃える家の例えである。金戒光明寺（こんかいこうみょうじ）にお江と忠長の供養塔を建立した。二人に対し、罪悪感があつたのかもしれない。

晩年、城を出て麟祥院に入るが、1643 年に死去。麟祥院に眠る。

凶年 64 歳。

麟祥院



春日局の墓



余談だが、千利休が秀吉の命令で切腹したという話が信じられている。しかし、その時期に、不思議なことに誰も書き残していない。多くの作家や歴史家がこのことを認めている。唯一 50 年ほど経て千家の子孫が秀吉に切腹させられたと発表し、歌舞伎やドラマで演じられ、日本中で信じられている。唯一見つかった記録は公卿の一人が‘利休が突然隠遁した。’と日記に書き残しているだけだ。隠遁先が黒田藩とする説もある。利休の子息を 300 石で召し抱えたとの記録があり、実際は利休の俸禄だったと推測する歴史家もいる。千家は名誉を守るために、また徳川幕府は秀吉最員の世論に対して、秀吉を誹謗するとの思惑が一致した？秀吉が町人を切腹させたのは本当だろうか？芝居や小説、映画、ドラマ他で話を面白くすることにより、歴史が歪められている？また、専門家が当時の資料が何も無いのに、50 年後の資料を信じたりする。別の案件では 200 年後の公式資料を信じないことも有る。もっと史実を明らかにする手段は無いものだろうか？尚、母親が春日局で父親が家康とする映画を見たことが有る。話としては面白いだろうが、その根拠は全く分からない。

以上